

第1学年英語科前期中間考査の内容

※問題は肥沼担当クラスも栖原担当クラスもすべて共通です。

1 範囲

- (1) 授業内容 最初の授業から最後の授業まで扱った内容全て
- (2) 基礎英語 4月号～6月号 6/10放送分

2 内容 ※あくまでも現時点での予定です。作成中に多少変更する可能性があります。

(1) 放送を聞いて答える問題 (70～80点)

- ① 基礎英語の内容理解に関するもの(場面、対話の流れ等) ※単語や表現は出さない
- ② 授業で扱った表現の理解に関するもの(応答の適切さ、表現の適切さ等)
- ③ 授業で扱った語彙(単語等)の理解に関するもの(意味、発音等)
- ④ 授業で扱った音の理解に関するもの(個々の音、音とつづり等)
- ⑤ その他

(2) 英語を読んで答える問題 (10～15点)

- ① 授業で扱った表現の理解に関するもの(応答の適切さ、表現の適切さ等)
- ② 授業で扱った語彙(単語等)に関するもの(意味等)
- ③ その他

(3) 英語を書いて答える問題 (10～15点)

- ① アルファベットに関するもの(大文字・小文字を正確に書く)
- ② 単語のつづりを正確に書く問題
- ③ その他

3 形式 ※あくまでも現時点での予定です。作成中に多少変更する可能性があります。

(1) 放送を聞いて答える問題

- ① 放送される選択肢の中から正しいものを選ぶ(記号)
- ② 放送される内容に合ったものを印刷されている選択肢の中から選ぶ(記号)
- ③ 放送される文字や数字を書く

(2) 英語を読んで答える問題

- ① 空所に入る適切な表現を印刷されている選択肢の中から選ぶ(記号)
- ② 空所に入る適切な文字を書く

(3) 英語を書いて答える問題

- ① アルファベットを手本通りに正確に書く
- ② 単語のつづりを正確に書く(Alphabet Chantsの26単語に限定)
- ③ 空所に入る適切なことば(日本語)を書く

4 対策

(1) 完全に理解するまで復習する

- ・授業で学習した内容はわからないところがなくなるまで何度も復習する
→自信が持てるようになるまでやらないと、落ち着いて試験を受けられない

(2) 正しく言える、読めるようになるまで練習する

- ・伝えたいことを正しく言えるかどうか確認する
→中途半端に「言える」と思いこんでいるのが一番ダメ。素早く正確に言えるか確認

(3) 正しく書けるようになるまで練習する

- ・アルファベットはペンマンシップ通りに正確に書けるようになるまで練習する
→4線との接点、直線の傾き、曲線の曲がり具合、線同士の接点等に注意する

5 備考

- ・テストでよい点を取ることは英語の力をつける過程での1つの「目標」ではありますが、英語学習の「目的」ではありません。テストのためだけの一夜漬け勉強をする人はテスト後に学習内容を忘れてしまいます。長い目で見て力をつく地道な復習をしましょう。

○生徒や保護者の不安や疑問にお答えします:パート2○

前回の「英語科通信 Vol.1」(No.16)はとても反響が大きく、生徒の感想では「自分は甘かった!」「どのような記録をつければいいかわかった」「俄然やる気になった」などの前向きなものが多くを占めました。また、保護者の方からは「我が子にもハッパをかけました」「自分の子の様子と比べると不安になります」というようなご感想を多くいただいた一方で、「他のお子さんとの比較はせずに、自分の子のありのままの姿を見守りたいと思います」というご意見もありました。このように反応は様々でしたが、現在行っている家庭学習をよりよいものにしてもらうために示した前回のプリントは、生徒や保護者の方へのよい刺激になったようです。そこで、現在ホットになっている話題も含めて第2弾をお送りします。

質問1 前期中間考査はどのようなものが出されるのでしょうか?

この質問は、最近になって生徒からもよくされるようになりました。「授業では『聞くこと』『話すこと』を中心にした楽しい(?)活動ばかりを行っているけど、テストでは結局いっぱい書かせられたりするんじゃないか…」という漠然とした不安があるようです。

この点をご心配なさらないでください。英語科の定期考査は、学校で習ったことや課題に出されたこと以外は出題しません。では、どのような問題が出されるのかというと、1年生の前期中間考査は、全体の約70~80%が放送による「聞くこと」の理解度を測る問題、残りが文字、音とつづりの関係、言語・文化に関する知識、等を問う問題となります(詳細は表面参照)。つまり、覚えることを義務づけられた以外の難しい単語のつづりを覚えたり、これまでに習った英文を書けるように準備する必要はないということです。

もちろん、附属中の試験ですから、一般の公立中学校のテストよりはレベルは高いと思ってください。例えば、ある単語や英文を放送で聞いたときに、「え~っと、なんだっけ…」などと時間をかけて思い出さなければならぬような理解のレベルでは高得点は取れません。授業中に習った内容に対して、一度聞いただけでサッと素早く判断したり応答したりできるレベルまで理解度が高くなっていなければなりません(特別な場合を除いて放送は一度しか流しません)。つまり、それまでに学習した内容が放送で流れてきたら、「ああ、あれね。だったら大丈夫」と思えるくらいまで復習をしておく必要があるということです。

なお、本日3年前(肥沼・蒔田担当学年)の問題を配付しましたので、具体的な問題形式等はそれをご覧ください(もちろん、同じ問題を出すということではありません)。さらに、本時ではその過去問を使って“予行演習”も行いました。問題形式や難易度のレベルを予め実感してもらうおうと企画したものですので、それに対応した学習を続けさせてください。

質問2 教科書はいつから使うのでしょうか?

現在は「入門期指導」という本校独自のプログラムで授業を進めているために自作のプリントを使っていますが、中間考査後は教科書をほぼ順番どおりに扱っていきます。ただし、最初の数レッスンはそこに載っている文法事項を入門期指導で扱っていますので、内容理解と音読に重点を置いてかなりのスピードでこなしていきます。そして、入門期で扱わなかった文法事項が載っているレッスンが出てきたところで、文法理解と内容理解の両面からじっくり扱っていきます。

余談ではありますが、今年度から教科書がすべて新しくなりました。英語科はさらに教科書会社も変更しました(教育出版 *One World* →三省堂 *New Crown*)。社会、数学、理科などのように単元内容が決まっている教科とちがって、英語は教科書が変わるとすべて一から授業を作り直さなければなりません。今年は最初の年なので、一部の学習内容(教科書の題材に関係すること等)は肥沼・栖原共に手探り状態です。そこで、生徒たちと相談しながら、一緒によりよい授業を作り上げていきたいと思っております(それが来年度以降の1年生の学習内容にも大きく影響します)。ご理解のほどよろしく願いいたします。

質問3 家庭学習の記録はいつまでやるのでしょうか?

これは生徒からの質問です。現在の形の家庭学習の記録は中間考査の週までとする予定です。その後はまた別の形(例:ノートに記録する等)を考えています。詳細が決まりましたら、生徒に指導いたします。

今週の「家庭学習の記録」に『No.52を読みました。』とお書きください。